

自衛隊山梨地方協力本部

(発行) 自衛隊山梨地方協力本部
募集課広報班
山梨県甲府市丸の内1-1-18
甲府合同庁舎
(055-253-1591)

新春



新年明けましておめでとうございます。皆様には平素より自衛隊山梨地方協力本部に対して温かいご支援・ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、昨年度は皆様のお力添えのおかげで、防衛大臣より第1級賞状を受賞することができました。改めて厚く御礼申し上げます。

我が国を取り巻く安全保障環境は依然として厳しく、自衛隊は北朝鮮や尖閣諸島の危機対応を行うとともに、国内では大規模自然災害等への対応を行っています。また、山梨地方協力本部は有効求人倍率の増加と少子化に伴う募集環境悪化の中で、山梨県の自衛官募集・援護・予備自衛官等の管理・広報・渉外といった地域社会との窓口業務を担っているところです。皆様には、新年も旧に倍するご厚情をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、自衛隊山梨地方協力本部は1月、2月、3月にも自衛官候補生の採用試験を行う予定です。大学・高校を卒業予定でまだ就職が決まっていないう方、既に社会人になられた方でも採用上限年齢が33歳未満に引き上げられましたので、多くの方々に国家公務員になるチャンスが残っています。

自衛官候補生は任期制の雇用形態ですが、平和を守り社会に貢献するというやりがいのある仕事です。給与は年2回の賞与を含め、景気に左右されず安定的に支給されます。任期を継続することも出来ますし、試験を受けて陸海空曹になることも出来ます。任期満了により退職する場合は、希望に基づいて就職



自衛隊山梨地方協力本部長

1等陸佐 新宅正章

先を援助しますし、特例退職金も支給されます。自衛隊での勤務を通じて成長していただき、将来進むべき道を見つけてステップアップしていくという制度ですので、安心して応募いただきたいと思っています。

自衛官は若年定年制を採用していますので、50歳代半ばで退職しますが、地域社会に再就職させていただくことにより、地域社会の伝統・文化の継承者、地域産業の担い手、あるいは自治体の防災監として地域社会の安全・安心のために活躍することが出来ます。自衛隊と地域社会が「Win-Win」の共生関係になれるよう努めて参りたいと思っています。

末筆ながら、本年も誠実かつ謙虚に地域社会との窓口業務を担って参りますので、皆様には自衛隊山梨地方協力本部を何卒宜しくお願い申し上げます。

陸上幕僚長感謝状贈呈式

12月1日(日)市ヶ谷駐屯地において、令和元年度陸上幕僚長感謝状贈呈式が実施されました。贈呈式では、日頃から自衛隊に対してご支援・ご協力を頂いている方々に感謝の意をこめて、陸上幕僚長湯浅悟朗陸将から感謝状が贈呈されました。

山梨県からは、株式会社テレビ山梨取締役相談役である金丸康信氏を受賞されました。金丸氏は、平成25年11月に山梨県自衛隊退職者雇用協力会の会長に就任、6年にわたって退職自衛官の再就職と会の発展に尽力され、この功績により陸上幕僚長感謝状を受賞されました。

その後の懇談会では、陸上幕僚長が受賞者の方々のテーブルを回り、これまでの活動に謝意を述べるとともに、様々な意見交換を行いました。



山梨地本は、今後とも協力者の皆様からのご協力を得ながら、地本一丸となつて任務の完遂に努めて参ります。

山梨県一周駅伝競走大会を支援

山梨地本は、第1特科隊とともに11月30日(土)及び12月1日(日)に実施された第56回山梨県一周駅伝競走大会を支援しました。

両日とも、車両7台を連行し、審判、救護員等の競技役員を乗せ、円滑な大会運営に寄与しました。

この際、選手とともに駅伝コースを走る車両には、自衛官募集をPRする横断幕を装着するなど、沿道で応援する方々に自衛官募集を呼びかけました。また、2日目のスタート地点となった富士吉田市役所前では、山梨地本の職員が自衛官募集ののぼり旗を持ち、自衛官募集を呼びかけました。

なお、競技は、19区間(154.1キロ)で行われ、参加した18個チームのうち、甲府チームが8時間28分58秒のタイムで2年連続総合優勝を果たし



山梨地本は、各種イベントを支援する機会を利用し、自衛隊の活動に対する理解を求めるとともに、自衛官募集を周知して参ります。

人事往来

【転入者】 (令和元年12月1日付)
甲府募集案内所長

三等陸佐 吉田 健一
(自衛隊東京地方協力本部)

【転出者】 (令和元年12月1日付)
甲府募集案内所長

二等陸佐 浅井 玄誠
(新発田駐屯地業務隊長)

予備自衛官補

- 応募区分: 一般及び技能
18歳以上の方
- 受付期間: 1月6日(月)～4月10日(金)
- 試験日: 4月18日(土)～22日(水)
(いずれか1日)

自衛官候補生

平和を守り未来を創る任期制自衛官

- 資格: 18歳以上33歳未満の者
- 受付期間: 試験日の各1週間前まで
- 試験日: 1月25日(土)、2月15日(土)
3月7日(土)



自衛隊音楽まつりに募集対象者等を引率

山梨地本は、今後とも各種イベントを通じて、自衛隊を身近な存在として理解していただく活動を続けて参ります。

山梨地本は、11月29日(金)国立代々木競技場第1体育館で行われた自衛隊音楽まつり(リハーサル公演)に募集対象者等38名を引率しました。

今年度の自衛隊音楽まつりは、陸海空自衛隊の音楽隊、防衛大学校儀仗隊、第302保安警務中隊のほか、在日米陸軍、米海兵隊、ドイツ及びベトナムの音楽隊が参加し、総勢1000名の国産色豊かな音楽まつりとなりました。

今回の音楽まつりは、会場に設置された大型ディスプレイに表示されたカウントダウンが始まりました。一曲目から音楽隊の糸乱れぬ動きと演奏が行われるとともに、自衛隊歌姫の魅力ある歌声が会場全体に響き渡り、演奏が終わると観客席から大きな拍手が沸きあがりました。

また、全国の駐屯地太鼓チームから選抜された15個のチームが「自衛太鼓」を演奏しました。山梨県からは北富士駐屯地で活動中の「北富士天王太鼓」が参加し、勇壮な演奏を披露しました。

約2時間の息付く暇のない音楽まつりを観覧した募集対象者からは「今回初めて参加したが、とても感動した。次回もまた観に行きたいです」「太鼓の演奏やファンシードリルの空包の音に驚いた。でも楽しかった」との感想が寄せられました。



自衛隊山梨地本便り

(発行) 山梨地方協力本部
募集課広報班
山梨県甲府市内の1-1-18
甲府合同庁舎
055-253-1591

令和元年度防衛白書説明

山梨地本は、10月23日(水)から約一ヶ月をかけて、「令和元年版日本の防衛(以下「防衛白書」という。)」を県知事及び各市町村長に説明して回りました。

「防衛白書」は、我が国の防衛の現状と課題及びその取り組みなどについて広く内外への周知を図り、理解を得ることを目的とした防衛省公式の刊行物です。

10月23日(水)の南アルプス市長への説明を皮切りに「防衛白書」ダイジェスト版を利用して、我が国周辺の国際情勢と防衛省・自衛隊の取り組みについて説明し、自衛隊に対する各自治体の理解を深めるとともに、防衛省・自衛隊と各自治体との連携強化を図りました。県知事及び各市町村長の自衛隊に対する関心が高く、説明後も様々な質問が投げかけられ、充実した白書説明になりました。

山梨地本は、今後とも各自治体との連携

強化を図り、防衛基盤及び募集基盤の拡充に努めて参ります。



山梨県国民保護実働訓練に参加

山梨地本は11月21日(木)、内閣官房、消防庁、山梨県、山中湖村で実施した令和元年度山梨県国民保護実働訓練に参加しました。

本訓練は、東京2020オリンピック競技大会を見据え、自衛隊ロードレース競技の関連イベントをターゲットとしたテロの発生を想定し、各機関が連携して、初動対応や被災者の救出・救護・搬送の実働訓練を行うことで、テロ災害への対応能力向上を図るとともに、県内関係各機関の更なる連携の強化を構築することを目的として開催されたものです。

具体的には、山中湖交流プラザ「きらいら」において、化学(サリン)爆弾爆発が起ったことを想定し、負傷者の救出・搬送訓練が行われるとともに、もう1つの会場である山中湖花の都公園では、爆弾が発見されたことを想定し、爆発物処理等が行われました。

当日は、約40機関約500名が参加し、自衛隊は、第1特科隊が警察・消防等の関係各機関と連携した負傷者の救出、ヘリコプター(UH-1J)による搬送を行いました。

山梨地本は、今後とも国民保護訓練等に積極的に参加し、関係機関との連携強化及び地域の国民保護のための措置に対する理解促進並びに防衛省・自衛隊への理解促進に努めて参ります。



予備自衛官補教育訓練修了式

令和元年11月10日(日)山梨地本は、武山駐屯地で実施された予備自衛官補の修了式に参加しました。

この日、教育訓練を修了した予備自衛官補は37名で、そのうち2名の者が山梨県出身者でした。いずれも建設資格を持つ技能職の予備自衛官補です。翌11日付で予備自衛官に任用されることから、式終了後、予備自衛官の辞令書を援護課長から手交し、以後の活躍を祈念しました。

今後は、予備自衛官として年間5日間の訓練に参加し、いざという時のために備えていくこととなります。

予備自衛官補の方々は、



山梨県出身隊員紹介

20番手

陸上自衛隊
中村 遥菜



本人左から2番目

- ◇出身校：笛吹高校
- ◇入隊良かった事：毎日、規則正しい生活ができるようになり、時間を効率よく使うことができるようになったことです。また、気持ちを高めあえる同期に出会えたことです。
- ◇入隊して苦労した事：休みの日に早く起きなければならなかったことです。
- ◇今後の目標：常に上を目指して頑張ることです。
- ◇後輩への一言：自衛隊では同期と毎日協力し合って、生活するので楽しく、自分を変えられる環境だと思います。

